

## II 農場運営

### 1 総務事項

#### 1) 人事異動

##### 2008. 3.31 退職

八汐 一博：農場総務係長  
内村 利美：入来牧場技術専門職員  
花田 博之：入来牧場技術専門職員

##### 2008. 4. 1 異動

毛利由美子：農場総務係長（7.1付 農場事務係長（総務担当）（前工学部総務係主任））  
佐土原 隆：農場業務係員（7.1付 農場事務係員）（前農学部会計係主任）  
新地 富一：学内農場農事部技術専門職員（前教育学部実習地技術専門職員）  
龍野 巳代：教育学部実習地技術職員（前学内農場農事部技術職員）

##### 2008. 4. 1 新規採用

石井 大介：入来牧場技術職員  
内村 利美：再雇用職員（入来牧場技能職員）  
花田 博之：再雇用職員（入来牧場技術職員）

##### 2008. 4. 1 配置換え

富永 輝：学内農場農事部技術職員（前入来牧場技術職員）  
勘米良祥多：唐湊果樹園技術職員（前指宿植物試験場技術職員）

##### 2008.12.31 異動

西川千賀子：教育学部附属小学校事務係長（前農場事務係長（業務担当））

##### 2009. 1. 1 異動

吉住 博孝：農場事務係長（業務担当）（前医学部・歯学部附属病院医務課地域医療連携係長）

#### 2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では、技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

##### (1) 「施設果樹における省エネルギー管理技術の開発の現状」に関する研究会

期間 平成20年5月29日～5月30日  
場所 天草市民センター、加温・無加温栽培デコボンハウス（天草市）  
カンキツ大規模基盤整備園、カキ「太秋」栽培園（宇城市）  
研修者 唐湊果樹園 勘米良祥多技術職員

##### (2) 食品衛生責任者養成講習会

期間 平成20年6月4日  
場所 鹿児島市黎明館  
研修者 入来牧場 木山孝茂技術職員  
城戸麻里技術職員

##### (3) 内部環境監査員養成講座(ISO14001)

期間 平20年6月14日～6月15日  
場所 鹿児島大学教育学部（鹿児島市）  
研修者 唐湊果樹園 勘米良祥多技術職員

##### (4) メロン栽培視察研修

期間 平成20年6月24日  
場所 そお鹿児島農業共同組合（曾於市大隅町岩川）  
研修者 学内農場農事部 新地富一技術専門職員

##### (5) ガス溶接技能講習

期間 平成20年6月28日～6月29日  
場所 樟南高等学校（鹿児島市）  
研修者 入来牧場 廣瀬 潤技術職員

(6) 平成20年度全国大学附属農場九州地域協議会・技術職員研修

期間 平成20年7月31日～8月1日  
場所 東海大学農学部農学教育実習場（熊本県阿蘇郡）  
参加者 入来牧場 城戸麻里技術職員

(7) 家畜人工授精（牛）講習会

期間 平成20年8月21日～9月26日  
場所 鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場（霧島市国分）  
研修者 入来牧場 廣瀬 潤技術職員

(8) アーク溶接等の業務の特別教育受講

期間 平成20年9月16日～9月19日  
場所 鹿児島教習所（鹿児島市七ツ島）  
研修者 唐湊果樹園 福留弘康技術職員

(9) 家畜体内受精卵移植（牛）講習会

期間 平成20年10月21日～11月13日  
場所 鹿児島県肉用牛改良研究所（曾於市）  
研修者 入来牧場 木山孝茂技術専門職員

(10) 刈払機取扱い作業者に対する安全衛生教育研修

期間 平成21年2月12日  
場所 鹿児島県林業労働力確保支援センター（始良郡蒲生町）  
研修者 学内農場農事部 田浦一成技術職員  
富永 輝技術職員  
唐湊果樹園 野村哲也技術職員  
福留弘康技術職員  
勘米良祥多技術職員  
指宿植物試験場 谷村音樹技術職員  
新地富一技術専門職員  
中野八伯技術職員  
入来牧場 木山孝茂技術専門職員  
廣瀬 潤技術職員  
城戸麻里技術職員  
石井大介技術職員

(11) 車両系建設機械運転技能講習

期間 平成21年3月11日～3月13日  
場所 鹿児島教習所（鹿児島市七ツ島）  
研修者 入来牧場 城戸麻里技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

(1) 学外

(学内農場農事部)

・市立荒田小学校3年生 51名 引率者 2名

時期：平成20年5月7日

内容：理科の単元学習において、自然の植物や虫を採集し、飼育観察する

## 農場運営

- ・私立めぐみ幼稚園 園児49名 教師・保護者 9名  
時期：平成20年5月15日  
内容：園外活動の一環として、いもの苗植え付けを体験するとともに、春の自然の中で思いきり遊ぶ
  - ・市立荒田小学校2年生 69名 引率者 3名  
時期：平成20年5月21日  
内容：生活の単元学習「虫をかおう」において、虫とりを行う
  - ・市立荒田小学校1年生 70名 引率者 3名  
時期：平成20年6月18日  
内容：遊び場でマナーやルールを守って、自然に親しんだり、来ている人とかかわったりしながら安全に気をつけて楽しく遊ぶ
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校 第5学年 165名  
時期：平成20年6月9日～10月31日  
内容：総合的な学習の時間における体験的な学習活動の一環として、水稻を育てる学習を行う
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校 3学年 159名  
時期：平成20年6月27日  
内容：総合的な学習の時間において、郡元キャンパスの地図を作成するための調査活動としてキャンパス探検を行う
  - ・韓国合鴨農民 20名  
時期：平成20年7月23日  
内容：合鴨圃場の見学
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校 2学年 160名  
時期：平成20年9月4日  
内容：年間を通して、学校や周りの様子を見てまわる活動をすることで、季節の変化やそれに伴う人や自然のうつり変わりを体験を通じて、実感させる
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校 3学年 各40名弱  
時期：平成20年10月16, 21, 24日  
内容：総合的な学習の時間において、郡元キャンパスの地図を作成するための調査活動としてキャンパス探検を行う
  - ・私立めぐみ幼稚園 園児51名 教師・保護者 9名  
時期：平成20年10月24日  
内容：いもの収穫及び秋の自然のなかでのびのび遊ぶ
  - ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園33名 引率職員 2名  
時期：平成20年11月27日  
内容：農学部の実習施設（畑や動物など）を見て、学内に様々場所があることを知ったり、農学部周辺の自然に親しむ
  - ・市立荒田小学校1年生 72名 引率者 3名  
時期：平成21年1月23日  
内容：生活の学習のために、冬の生き物の様子を観察したり、冬超えをする虫などを見つける
  - ・聖母幼稚園 160名 引率職員 12名  
時期：平成21年3月6日  
内容：大学キャンパスを訪問し、子どもたちの体験の内容を豊かにしてもらう
- (唐湊果樹園)
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 幼児69名 引率者 6名  
時期：平成20年10月30日  
内容：みかん狩りをして収穫の喜びを味わうとともに、唐湊果樹園の野山の自然に親しむ
  - ・鹿児島大学教育学部附属中学校 7名  
時期：平成20年11月6日, 7日  
内容：職場体験学習の一環として唐湊果樹園にて農業体験を行う
- (指宿植物試験場)
- ・指宿熱帯果樹研究会 25名  
時期：平成21年3月23日

内容：研究会の勉強・交流会の開催

(入来牧場)

- ・鹿児島市有屋田町老人会 22名  
時期：平成20年10月15日  
内容：高齢者の教養と研修を兼ねて入来牧場の概要を知る
- ・ザンビア大学獣医学部教員 1名  
時期：平成20年8月8日  
内容：施設見学
- ・若葉俳句会 12名  
時期：平成20年9月28日  
内容：俳句吟行
- ・鹿児島市有屋田町老人会 22名  
時期：平成20年10月15日  
内容：高齢者の教養と研修を兼ねて入来牧場の概要を知る

(2) 学内

(学内農場)

- 4月4日～12月30日 トンボ(ヤゴ)の観察及び採集(3名)
- 5月1日～H21年3月31日 郡元キャンパス内におけるアリの生態分布のデータ収集(1名)
- 6月16日～9月30日 害虫の卵採取(3名)
- 7月8日～9日 水稻植物体より放出される気体の採取法の検討(2名)
- 7月16日～17日 水稻植物体より放出される気体の採取法の検討(2名)
- 7月28日～10月30日 水稻植物体より放出される気体の採取(2名)
- H21年2月9日 修士・卒業研究発表に伴う交流会(30名)

(指宿植物試験場)

- 7月4日～5日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(2名)
- 8月1日～3日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(2名)
- 9月4日～6日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(3名)
- 10月3日～6日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(4名)
- 10月31日～11月3日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(4名)
- 11月28日～30日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(5名)
- 12月5日～7日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(5名)
- 12月12日～14日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究に係わる調査(1名)
- H21年3月20日～22日 附属農場植物部門主任：平成20年度卒業研究及び修士論文に係わる栽培準備(4名)

(入来牧場)

- 4月11日 ライトセンサスによる牧場採草地への野生シカの侵入頭数の把握(5名)
- 7月23日 農業環境システム学(農業関連施設の見学)(18名)
- 9月9日～10日 牛の排卵状況の調査(3名)
- 9月14日～16日 シカの36時間行動のビデオ録画撮影(1名)
- 9月18日～20日 シカの36時間行動のビデオ録画撮影(1名)
- 9月29日～30日 家畜人工繁殖学実習(24名)
- 10月2日～3日 肉用牛の行動観察(8名)
- 10月2日～5日 シカの36時間行動のビデオ録画撮影(1名)
- 10月9日～12日 シカの行動観察(1名)
- 10月23日～26日 シカの36時間行動のビデオ録画撮影(1名)
- 10月28日～31日 牧場採草地への野生シカの侵入調査(1名)
- 10月30日～31日 育成牛の行動観察(11名)
- 11月4日～11日 牧場採草地への野生シカの侵入調査(1名)
- 11月12日～15日 牧場採草地への野生シカの侵入調査(1名)

農場運営

11月17日～23日	山羊の行動のビデオ録画撮影（1名）
11月18日～25日	牧場採草地への野生シカの侵入調査（1名）
11月26日～12月2日	牧場採草地への野生シカの侵入調査（1名）
12月3日～12月6日	牧場採草地への野生シカの侵入調査（1名）
12月26日～28日	山羊の行動のビデオ録画撮影（2名）
H21年1月7日～9日	山羊の行動のビデオ録画撮影（2名）

4) 刊行物

鹿児島大学農学部附属農場年報, 第3号 (2008.9)  
 鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 第31号 (2009.3)

5) 行事

4月9日～10日 展示即売会および市民農業講座  
 7月25日 指宿植物試験場観葉際  
 11月14日 唐湊果樹園収穫際

6) 平成20年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会

日 時：平成20年5月8日13時30分～5月9日12時  
 場 所：フロラシオン青山（東京都港区）  
 参加者：坂田農場長，遠城植物部門主任

(2) 秋季協議会

日 時：平成20年9月4日～9月5日  
 場 所：日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）  
 参加者：伊村動物部門主任

(3) 九州地域協議会

日 時：平成20年7月31日～8月1日  
 場 所：東海大学農学部（熊本県阿蘇郡南阿蘇村）  
 参加者：坂田農場長，毛利事務係長，城戸術職職員

2 会計事項

1) 予算および決算

平成20年度の農場予算および決算は、第6表のとおりである。予算額，決算額共に132,184,779円で，差引過不足は生じなかった。

第6表 平成20年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	5,200,000	0	5,200,000	5,409,095	209,095
農場実習支援経費	49,800,000	0	49,800,000	49,964,911	164,911
農場運営経費	65,161,274	10,753,505	75,914,779	75,540,773	374,006
主事	400,000	0	400,000	288,635	111,365
植物部門主任	400,000	0	400,000	511,365	111,365
動物部門主任	400,000	70,000	470,000	470,000	0
合 計	121,361,274	10,823,505	132,184,779	132,184,779	0

2) 機械, 設備および備品

本年度は, 施設毎の機械, 備品を中心に, 第7表に示すように総額18,690,060円の予算を充当した。

第7表 平成20年度機械設備等の整備 (50万円以上 予算: 自己収入)

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額 (円)	施設名
ポランド	EP6045	1台	908,250	入来牧場
ベールディストリビュータ	ヤンマー T-12 HBL	1台	2,205,000	"
カートリッジ式全自動酸化エチレンガス滅菌器	エルクコーポレーション SA-N540	1台	1,298,850	"
血球計算機	POCH 100ivDiff	1台	1,396,500	"
高温高压洗浄機	ケルヒージャパン HDS8/14C	1台	525,000	"
パーソナルマルチガスインキュベーター	アステック APM-30D	1台	577,500	"
動物用超音波診断装置	アロカ ProSound2	1台	3,570,000	"
プールベンチ施設	K-6ハウス内	1式	945,000	学内農事部
トマト1段密植栽培施設	ベンチキット・液肥投入器	1式	1,480,500	"
ロータリー	ニプロ CX18100S	1台	549,150	"
軽トラック	ダイハツ 農用スペシャル 4WD	1台	902,640	"
養液栽培システム		1式	1,629,600	唐湊果樹園
4輪ホイール運搬車	ヤンマー FG185SD B-4	1台	829,500	"
プラント・キャノピーアナライザー	メイワフォーシス LAI-2000	1台	1,872,570	主事研究室
合計			18,690,060	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より, 作物生産に配慮した輪作体系を組み, 田畑輪換も含めた作付体系を実施している。しかし, 元来が排水不良地であるため, 畑作時における, 湿害の発生がみられた。そこで, 平成19年度の実習教育改善経費により, 排水不良の2圃場(5号: 1,486㎡, と9号: 1,218㎡)に暗渠排水を敷設した。20年度では引き続き, コンクリート枠水田の給水整備を行った。今後, 輪作体系をみながら, 2~3年の年次計画でその他の排水不良圃場にも同様の設備を敷設する予定である。

(2) 唐湊果樹園

平成18年度の実習教育改善経費により, ブドウ栽培用硬質プラスチックハウス(192㎡)が新設され, 20年度より本格的な栽培を開始した。

現在使用しているビニルハウスの一部は簡易型で, 老朽化しパイプの腐食が目立ち, 強風時には倒壊防止のためにビニールを剥がねばならず, その都度, 保存植物は甚大な被害を被ってきた。台風に耐えられる鉄骨ハウスの建設が緊急の課題である。

果樹園は唐湊墓地と隣接し, 境界をフェンスで張り巡らせているが, 一部倒壊し危険であるため早急な対策が必要である。また園内へのゴミの投棄が多く見られ, 対策として草払い等の環境整備を行っているが, 改善されないため何らかの対策を講じなければならない。

(3) 指宿植物試験場

平成20年度補正予算により「省エネルギー型生産技術開発システム」が導入された。本システムは, 地域一帯で発生する温泉熱エネルギーと太陽光エネルギーを併用した二酸化炭素排出を抑えた効率的な農業施設加温システムである。指宿植物試験場では, ガラス温室, ビニルハウスの加温に温泉を利用しているが, 温泉を直接配管パイプに流すため, パイプの腐蝕やスケール(湯垢)の除去などに問題があった。本システムは, 熱交換パネルを介して温泉により市水を加温し, その温水を各施設に送り, 施設内のコイル式熱交換器にを加温し, 送風する方式であり, 前述した問題は熱交換パネルの洗浄が必要なものとなる。また, ポンプや送風扇などの電源を太陽光発電から得るものである。本システムにより, 温泉が利用できる地域での新しい施設加温方法の確立を目指している。下記にその概念図を載せる。

## 農場運営

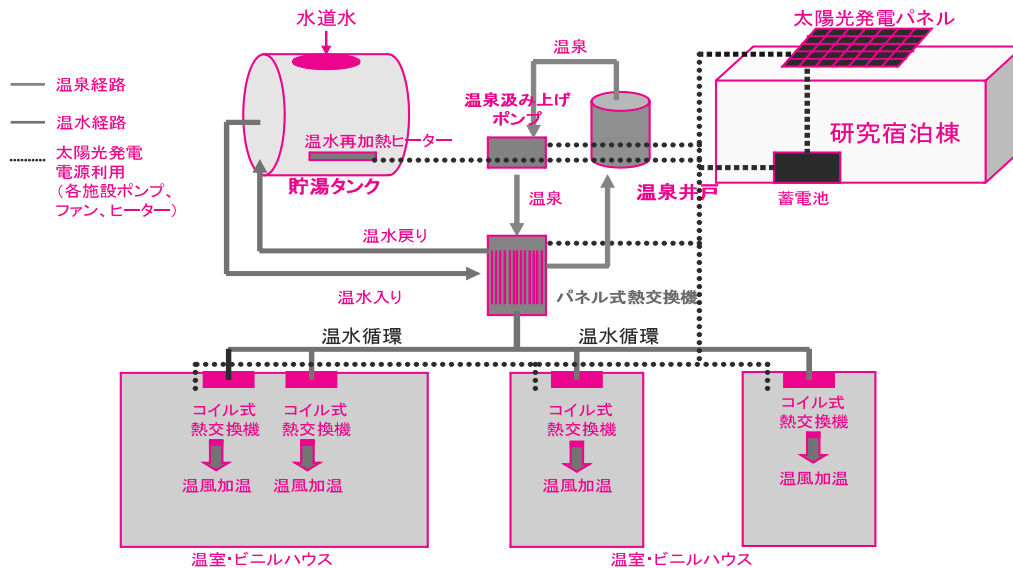


図1 温泉熱交換と太陽光発電を用いた施設加温システム

### (4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工（1968）後、40年を経過し、壁面の亀裂、雨漏り等、老朽化が著しい。また、竣工時、男子のみを対象をして建設された施設は、近年の女子学生比率の高まりに対応していないことから、不都合な場面が多くなっている。入来牧場管理棟の新営および改修が緊急の課題である。そこで、20年度は、19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行った。今後、順次、宿泊室や外壁の改修を行っていく予定である。

### (5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築25年を経過し、雨漏りなどの老朽化が目立ってきた。今年度も雨漏り防止のために、屋根の補修を行った。概算要求による全面改修を視野に入れる必要がある。

## 3 各種会議および委員会

### 1) 農場会議

#### (1) 委員名簿（任期2年 2007年4月1日～2009年3月31日）

農場長（委員長）	坂田 祐介
農場主事	黒田 治之
植物部門主任	遠城 道雄
動物部門主任	伊村 嘉美
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
園芸生産学講座	富永 茂人
病害虫制御学講座	津田 勝男
家畜生産学講座	岡本 新
農業経営経済学講座	李 哉洙
生物資源化学科	境 雅夫
生物環境学科	石黒 悦爾
獣医学科	出口栄三郎
事務長	松田 孝三

#### (2) 会議記録

第1回：平成20年5月20日（火）15時～17時20分

- 議題
1. 生産物販売所の新設について
  2. 豚舎改築費（繰越金）の転用と入来牧場管理棟改修計画の変更について
  3. 入来牧場家畜診療施設開設とその整備について

4. 豚を用いた実習計画及び食品加工実習について

第2回：平成20年7月3日（木）持ち回り決済

議題 1. 附属農場総務係と業務係の統合に伴う農場規則、内規及び要項の改正について

第3回：平成20年7月22日（火）9時～10時35分

議題 1. 平成19年度附属農場決算（案）について  
2. 平成20年度附属農場予算編成方針（案）並びに予算（案）について

第4回：平成20年9月30日（火）10時30分～12時05分

議題 1. 平成20年度後期農場実習 プログラム（案）について  
2. 平成20年度実習教育改善経費の分配（案）について  
3. 平成20年度後期施設等利用計画（案）及び施設清掃計画（案）について  
4. 平成20年度定年退職予定者（教授）の後任補充について  
5. 平成22年度概算要求事業について（新規）

第5回：平成20年12月18日（木）13時～13時40分

議題 1. 平成22年度概算要求事業の変更について

第6回：平成21年3月2日（月）10時30分～11時45分

議題 1. 農場主事の選出について  
2. 附属農場（入来牧場）の特任准教授人事について  
3. 附属農場の規約等の一部改正について  
4. 平成21年度兼任教員の選出について

第7回：平成21年3月16日（月）13時～13時50分

議題 1. 平成21年度前期農場実習 プログラム（案）について  
2. 平成21年度前期集中実習日程に（案）について  
3. 平成21年度前期施設等利用計画（案）について  
4. 平成21年度（第41回）農場生産物展示即売会（案）について  
5. 附属農場（入来牧場）の特任准教授人事に関わる選考委員会委員の選出について

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	坂田 祐介
農場主事	黒田 治之
植物部門主任	遠城 道雄
動物部門主任	伊村 嘉美
兼任教員	山本 雅史
兼任教員	高山 耕二
兼任教員	佐藤 宗治
農事部技術総括	松元 里志
唐湊果樹園技術総括	川口昭二・野村哲也(H20.7.1～)
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
事務長代理	稲葉 成人(H20.7.1～)
農場総務係長	毛利由美子(H20.7.1～ 農場事務係長(総務担当))
農場業務係長	西川千賀子(H20.7.1～ 農場事務係長(業務担当))・ 吉住 博孝(H21.1.1～)

(2) 委員会記録

第1回：平成20年4月16日（水）15時～16時05分

議題 1. 平成20年度前期集中実習日程案（修正版）について  
2. 豚飼養改善策報告に対する事務局長回答について  
3. 技術職員の研究者登録について

第2回：平成20年5月14日（水）15時～17時10分

議題 1. 豚舎改築費（繰越金）の転用と入来牧場管理棟改修計画の変更について  
2. 豚を用いた実習計画案について



## 農場運営

3. 農場実習（食品加工実習）のあり方について
4. 入来牧場家畜診療所整備について
5. 平成20年度新規採用者及び他施設からの異動者の研修について
6. 函説「鹿児島大学が保存している亜熱帯・熱帯作物」の刊行について
7. 平成20年度前期集中実習日程案について
8. 生産物販売所の新設について

第3回：平成20年7月2日（水）10時～12時05分

- 議題
1. 平成19年度決算報告について
  2. 平成20年度附属農場予算編成方針（案）並びに付帯事項（案）について
  3. 入来牧場における牛白血病清浄化のための対策費計上について
  4. 附属農場総務係と業務係の統合について
  5. 「ねんりんピック鹿児島2008」について
  6. 研究実習棟の土足解禁について

第4回：平成20年7月17日（木）13時～14時05分

- 議題
1. 平成20年度附属農場予算編成方針（案）並びに付帯事項（案）について（継続）
  2. 平成20年度附属農場予算（案）について

第5回：平成20年9月2日（火）15時30分～17時

- 議題
1. 農場施設の均衡ある発展と農場実習の充実について  
- 学内農場で実施されている花卉実習の指宿植物試験場への移管（案） -
  2. 入来牧場の将来構想について  
- 実習と経営に関する戦略 -
  3. 学内農場における農薬散布について

第6回：平成20年10月1日（火）15時～16時45分

議題 なし

第7回：平成20年12月10日（水）15時～16時35分

- 議題
1. 指宿植物試験場水田跡地の利用の再検討について
  2. 入来牧場における豚に関する実習教育について
  3. 生産物取扱いの申し合わせについて

第8回：平成21年1月7日（水）15時～16時45分

議題 なし

第9回：平成21年2月4日（水）15時～16時35分

- 議題
1. 平成21年度（第41回）農場生産物展示即売会について
  2. 農場実習の授業回数について
  3. 附属農場関係規則等の一部改正について

第10回：平成21年3月4日（水）15時05分～16時30分

- 議題
1. 平成21年度（第41回）農場生産物展示即売会について（継続）
  3. 平成20年度未執行予算の使途に（100万円以上）について

### 3) 農場実習教育委員会

#### (1) 委員名簿

農場長（委員長）	坂田 祐介
農場主事	黒田 治之
植物部門主任	遠城 道雄
動物部門主任	伊村 嘉美
生物生産学科	
作物生産学講座	佐々木 修
”	箱山 晋
”	佐藤 宗治
”	一谷 勝之
園芸生産学講座	富永 茂人
”	山本 雅史
”	久保 達也

”	坂田 祐介
”	橋本 文雄
”	清水 圭一
家畜生産学講座	吉田 光敏
”	高山 耕二
病虫害制御学講座	津田 勝男
生物資源化学科	
食品機能化学講座	青木 孝良
生物環境学科	
環境システム学講座	石黒 悦爾
”	岩崎 浩一
獣医学科 臨床獣医学講座	高木 光博
フロンティアサイエンス	
研究推進センター	田浦 悟
生物生産学科	
家畜生産学講座	中西 良孝
”	前田 芳實
”	岡本 新
”	大久津昌治
”	三好 和陸
”	下桐 猛
獣医学科 臨床獣医学講座	大和 修
”	小島 敏之
”	出口栄三郎
”	窪田 力

(2) 委員会記録

第1回：平成20年7月18日（金）9時～10時08分

- 議題
1. 食品加工実習のあり方について
  2. 農場実習における野菜実習の充実について
  3. 「生物生産フィールド科学実習教本」の改訂について（原稿依頼）
  4. 授業評価に対する課題の整理について

第2回：平成20年9月2日（火）13時～15時15分

- 議題
1. 農場施設の均衡ある発展と農場実習の充実について  
- 学内農場で実施されている花卉実習の指宿植物試験場への移管（案） -
  2. 実習教育改善経費使途に関わる課題の選定について
  3. 実習教育委員会経費の使途について
  4. 農場実習 プログラム編成方針について

第3回：平成20年9月26日（金）10時30分～11時15分

- 議題
1. 平成20年度実習教育改善経費の配分（案）について
  2. 平成20年度後期農場実習 プログラム（案）について
  3. 平成20年度後期集中実習日程（案）について

第4回：平成20年1月30日（金）10時40分～12時15分

- 議題
1. 平成21年度前期農場実習の方針について
  2. 集中実習のあり方について
  3. 兼任教員再任のお願い
  4. 兼任教員の申請について
  5. 学内農場の圃場整備（実習改善経費）について

第5回：平成21年3月10日（火）13時～14時30分

- 議題
1. 平成21年度前期農場実習 プログラム（案）について
  2. 平成21年度前期集中実習日程（案）について
  3. 農場運営委員会委員の選出について

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿

農場主事 (委員長)	黒田 治之
植物部門主任	遠城 道雄
動物部門主任	伊村 嘉美
作物生産学講座	角 明夫
園芸生産学講座	衛藤 威臣
病害虫制御学講座	岩井 久
家畜生産学講座	大久津昌治
生物資源化学科	大塚 彰
生物環境学科	高木 東
獣医学科	川崎 安亮

(2) 委員会記録

第1回:平成20年9月16日(火)10時30分~11時15分

- 議題 1.平成20年度後期施設等利用計画(案)について  
 2.清掃計画日程(案)について  
 3.「体細胞クローン,顕微受精等の体外操作により作出した豚胚の産子への発生能に関する研究」の受入について  
 4.大学生協からの農薬散布及び堆肥施用に関する申し入れについて

第2回:平成21年3月2日(月)13時~13時30分

- 議題 1.平成21年度前期施設等利用計画(案)について  
 2.平成21年度各施設の清掃計画日程(案)について  
 3.観賞園芸学研究室ビニルハウスの農場移管について

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿

園芸生産学講座 (委員長)	山本 雅史
農場主事	黒田 治之
作物生産学講座	岡本 繁久
家畜生産学講座	大久津昌治
獣医学科	叶内 宏明

(2) 委員会記録

第1回:平成20年6月3日(火)16時10分~16時40分

- 議題 1.鹿児島大学農学部農場研究報告投稿規定について  
 2.「鹿児島大学農学部農場研究報告」原稿の募集について

第2回:平成20年12月10日(水)

- 議題 1.「鹿児島大学農学部農場研究報告」投稿原稿の校閲者決定について

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿

獣医学科 臨床獣医学講座 (委員長)	出口栄三郎
〃	小島 敏之
生物生産学科 家畜生産学講座	吉田 敏光
〃	中西 良孝
農場主事	黒田 治之
植物部門主任	遠城 道雄
動物部門主任	伊村 嘉美
入来牧場技術総括	片平 清美
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録

第1回：平成20年4月17日(木) 13時30分～15時15分

- 議題 1. 牛白血病ウイルス抗体検査結果(3月10日)について  
 2. 廃用予定牛の措置について  
 3. 実習・実験時の衛生管理について  
 4. 管理獣医師の配置と診療上の開設について  
 5. 消毒ゲートの改修について

第2回：平成20年6月3日(木) 13時30分～15時

- 議題 1. 教授会への報告について  
 2. 牛白血病清浄化のための対策費計上について  
 3. 「八重山高原物語」の incoming 牧場への入場について  
 4. 大韓民国江原道産団体の incoming 牧場の視察見学について

第3回：平成20年7月28日(月) 13時00分～14時40分

- 議題 1. 家畜診療施設の整備について  
 2. BLV 抗体検査報告について  
 3. 牛白血病清浄化のための新牛舎の建設について  
 4. incoming 牧場試験豚房における受精卵移植用メス豚の飼育について  
 5. 「産業動物診療獣医師確保対策」就業体験支援事業への協力依頼について  
 6. 鹿児島市有屋田町老人会の incoming 牧場の見学について

第4回：平成20年8月29日(月) 16時～16時30分

- 議題 1. 家畜診療施設の整備物品について  
 2. BLV 抗体検査結果(8月22日)について

4 incoming 牧場における家畜衛生管理体制の整備について

平成19年3月から7月にかけて、incoming 牧場において、豚のへい死問題と牛白血病感染問題が相次いで発覚した。農学部では、公衆衛生上、家畜管理体制に万全を尽くさなければならない大学農場でこのような事態を招いた反省から、家畜衛生管理体制及び運営体制のあり方について検討し、incoming 牧場を教育と研究面で、その存在意義を大学、社会から評価される実習教育施設に整備していくという決意表明を兼ねて、豚のへい死問題と牛白血病感染問題に関する概要と対策について報告する。

1) 豚のへい死問題

平成19年3月の incoming 牧場における飼育豚の物品棚卸しの確認作業において、帳簿現在高(数)と現存頭数との間に291頭の差があることが判明した。この原因を調査したところ、この291頭はへい死した豚であったこと、しかもこれらのへい死豚について、鹿児島大学物品管理規程第11条で義務づけられている「物品不用決定伺」の報告義務を怠っていたことが明らかになったことから、運営管理体制の抜本的見直しが求められた。

また、豚へい死の原因については、本学獣医学科の研究者によって、豚繁殖呼吸障害症候群(PRRS)ウイルスと関連した複合感染症あるいは豚回虫による間質性肝炎等によったことが推定され、豚飼養管理が不適切であったことが示された。

2) 牛白血病感染問題

平成19年7月18日、incoming 牧場職員より、incoming 牧場で飼養されている牛に白血病ウイルスが感染している可能性が報告された。農場では直ちに、実態調査を開始するとともに、自主的にウシ白血病血清抗体価検査を行い、ウシ白血病ウイルス感染が飼養牛の約6割に及んでいることを確認した。

ウシ白血病は、ヒトに感染する恐れがなく、食肉の安全性に関しても問題ではないとはいえ、「家畜伝染病予防法」に定められている「届出伝染病」に指定されている意味を考えれば、伝染病としての措置をとることは当然であり、教育施設である大学牧場であればなおさらであり、それに対応する対策を早急を実施することとした。

3) 今後の対策について

以上、相次いで発覚した2つの問題について、農学部では学部長を座長とする「incoming 牧場問題対策検討会」を設置して検討を重ねるとともに、家畜衛生管理体制の確立を中心とした対応策を以下のように決めた。

ウシ白血病に関しては、ウイルス感染牛の隔離等による白血病ウイルスの清浄化に向けた取り組みを進めるとともに、常駐の管理獣医師を置くこととし、20年4月1日付けで山口 浩管理獣医師を採用した。また、そのための施設整備を最優先で行うこととし、正常牛飼育専用の牛舎を新設した。なお、豚飼育に関しては当面見合わせ、農場実習教育の中で再度検討を進めていくことにした。